

旧中野刑務所正門の移築・修復工事の進捗状況等について

旧中野刑務所正門（区指定有形文化財：旧豊多摩監獄表門。以下「正門」という。）の移築・修復工事に係る進捗状況と今後の予定について、以下のとおり報告する。

1 移築・修復工事の進捗について

(1) 正門内部

令和 6 年 9 月に工事を再開して以降、正門の基礎の一体性を確保し、今後の揚屋・曳家の工程に耐えられるようにするため、既存の煉瓦及びコンクリートの基礎を鉄筋コンクリートで覆う補強工事を実施した。左右の部屋と中央の通路の補強基礎梁には、基礎の変形を防ぐため、仮設の水平拘束部材（突っ張り棒の役割を果たす鋼材）を設置し、その上に新たな床面を建造した（写真 1）。

また、建物自体の補強と一体性を確保するために鉄骨水平ブレースを壁体上部に設置した。今後は曳家の実施に備え、煉瓦のひび割れ補修を行う。

(2) 正門周囲ほか

曳家経路と曳家先は、正門や曳家のレール等の荷重に耐えられるよう、地耐力の弱い地表面から約 2.5 m の深さまで掘削し、耐圧盤（荷重を支えるための厚さ約 30 cm の鉄筋コンクリート製の床）を設置した（写真 2）。



写真1 床面の設置状況



写真2 曳家経路と曳家先

正門周囲についても掘削を行い、掘削した箇所に耐圧盤を打設した。さらに、正門の東面・南面・西面には、耐圧盤の上に水平拘束鉛直ブレースを設置した（写真 3）。この鉛直ブレースや北面の山留の部材と補強基礎の間には、床下同様水平拘束部材を設置し、四周から押さえるように固定した。これは、基礎の変形や水平方向への移動の防止を目的としている。また、正門直下の掘削を行うのと同時に、仮受鋼材杭を設置し、現在はこの鋼材杭のみで正門を支持している状態である（写真 4）。



写真3 正門周囲の状況



写真4 正門直下の状況

2 今後の移築・修復工事等について

令和7年7月28日から8月5日までの期間で、正門の移動（曳家）を行う予定である。正門をジャッキアップし、仮受鋼材杭からコロ棒の上に組まれた移動装置に移し、油圧ストロークジャッキで正門東側から押すことにより、西側への移動（曳家）を行う（図1・図2）。

正門の移動（曳家）後は、移動先において建物自体の修復や建具の復元を行っていく。また、正門の元位置や曳家経路上の耐圧盤等の撤去、埋め戻しを行った後、平和の森小学校の新校舎整備工事に着手することとなっている。

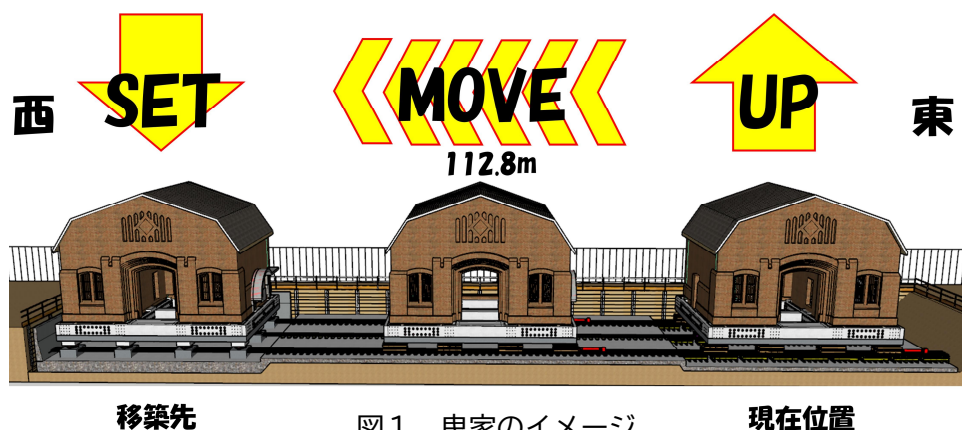


図1 曳家のイメージ

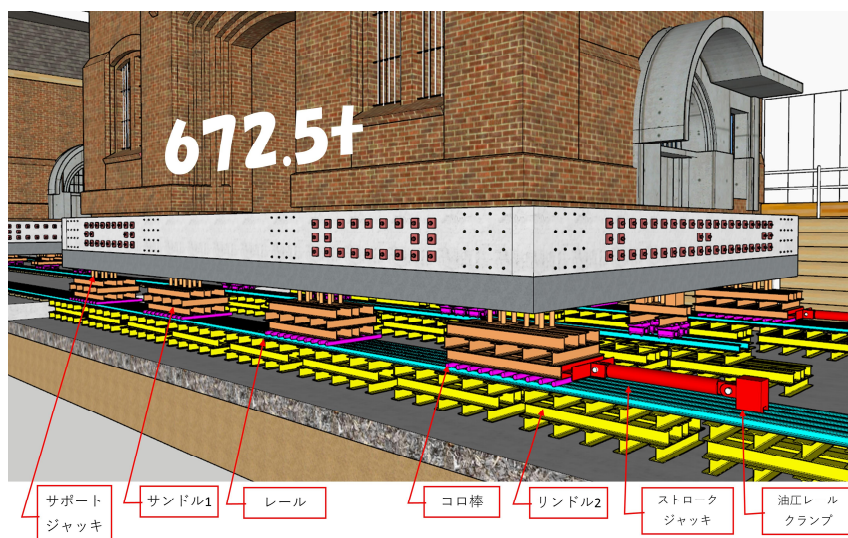


図2 曳家装置のイメージ

3 曳家の公開見学会の実施及び情報発信等について

正門の曳家時期（7月下旬から8月上旬の予定）にあわせて、3日間、300人程度の区民等を対象とした公開見学会を実施する。なお、日程や実施の詳細については、今後なかの区報（6月20日号）や区ホームページ等で周知する。

また、煉瓦造建造物の曳家は、全国的にも珍しい事例であるとともに、旧豊多摩監獄や旧中野刑務所の歴史や背景を含め、多くの人々に関心を持ってもらうきっかけになると考えている。今後の活用に向けた気運を高めていくため、曳家の様子について、報道機関の取材による発信や中野区公式チャンネルでの動画配信などを積極的に行っていく。併せて、旧小菅刑務所庁舎をはじめとした関係文化財と連携した情報発信や活用も検討していく。

4 工事現場仮囲いの活用について

移築・修復工事を行っている矯正研修所跡地の周囲には仮囲いが設置されている。敷地北側の仮囲いの一部に、今年度中に正門に関する説明や子どもの絵を印刷したシートを貼付し、門に関する情報発信や文化芸術発信の場として活用していく（写真5）。

なお、シートに印刷する子どもの絵については、近隣の平和の森小学校や中野中学校の児童生徒の協力により制作する予定である。

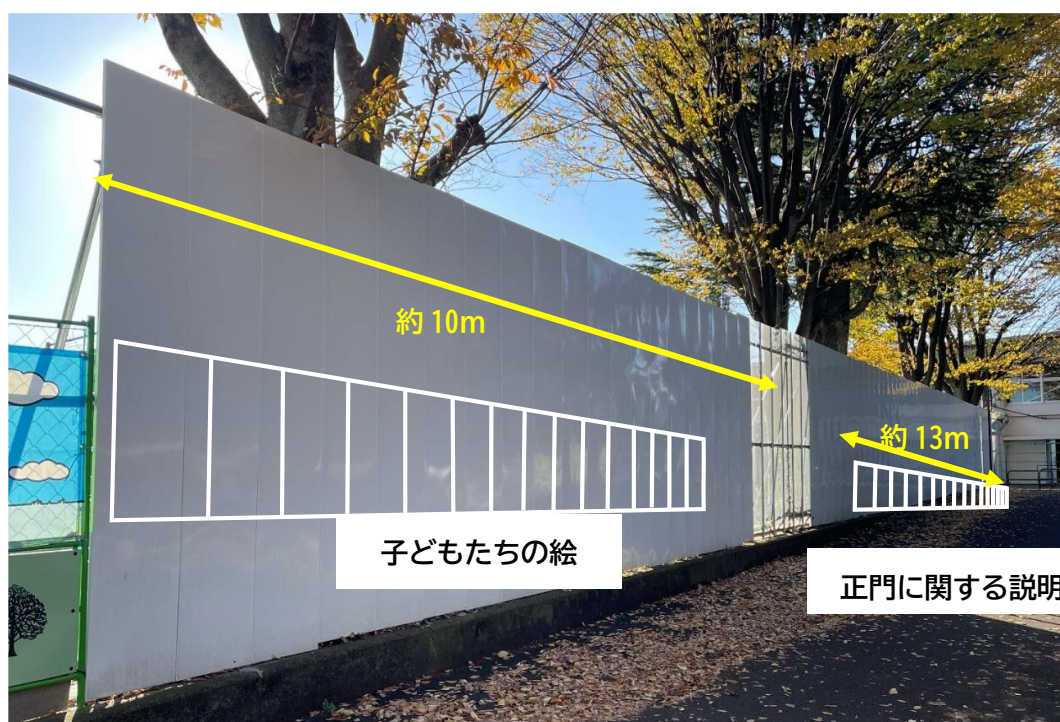


写真5 工事仮囲い活用のイメージ

5 今後の予定

令和7年7月下旬～8月上旬	正門の曳家（公開見学会）
11月末	移築工事（曳家工事・曳家経路）の完了
令和9年2月	曳家後工事（修復・復元工事）の完了
3月末	記録・保存業務の完了
令和10年5月	正門の公開開始